

令和3年度第2回障害者雇用促進プロジェクトチーム (発言要旨)

日 時：令和4年2月10日（木）

午前10時30分～11時40分

開 催：オンライン

参加者：委員12名、オブザーバー5名

1 開会

2 あいさつ

(1) 労働政策課長 設楽 修一

今年度のプロジェクトチームでは、障害者テレワークの促進等を中心に議論してきたが、皆様にご意見をいただいた結果、来年度の予算化をはじめ、障害者雇用を促進する取り組みに繋がっている。

本日の会議では、令和3年障害者雇用状況の集計結果の報告、テレワークやOr i H i m e 関係の今年度実施事業の報告、令和4年度県障害者雇用関連予算案の説明などを予定している。

オンライン開催であるが、委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただき、実効性のある施策の推進を図って参りたい。

3 自己紹介

委員及びオブザーバーが自己紹介

4 議事

(1) 令和3年障害者雇用状況の集計結果について

(小関委員)

- ・令和3年3月1日から障害者の法定雇用率が0.1ポイント引き上げ
- ・民間企業の雇用障害者数、実雇用率いずれも過去最高を更新
- ・公的機関は実雇用率が前年比より上がっているものの、雇用率未達成の機関もある。
- ・企業規模や産業別により、実雇用率の差が出ている。

(竹内座長)

・初めて障害者雇用義務が生じた企業もあると思うが、企業の反応について、情報提供をいただきたい。

(須田委員)

・コロナの影響が特に中小企業に大きく、雇用率にも影響しているのではないかと。仕事自体が不足しているとの声もあるので、今後注視していく必要があると思う。コロナが長引いており、大きな影響がいつ出るかもわからず、雇用の確保ができるようサポートしていきたい。

(竹内座長)

・障害者職業センターは、事業主への支援もしていると思うが、企業からの支援ニーズは何か。

(香月委員)

・ハローワークと協力して、企業へ訪問する機会がある。企業からは、今ある仕事では、障害者雇用が難しいとの声があり、その場合は、実際の作業場面を見させてもらい、雇用に向けて、企業の相談に乗っている。やはり、職務設定が難しいと感じている。

(2) 令和3年実施事業について

①障害者テレワーク支援事業について

(事務局)

○企業向け支援の実績報告

- ・アドバイザー派遣先企業2社にて2名、障害者のテレワーク雇用を実現
- ・企業向けセミナー参加者58名
- ・導入事例動画については、アドバイザー派遣先企業の事例を動画にし、県のYouTubeに公開予定

○障害者向け支援の実績報告

- ・障害者・支援者向けセミナー参加者85名
- ・障害者テレワーク採用説明会参加者129名
- ・応募準備研修参加者10名

(竹内座長)

・テレワークが一般的になっているなか、支援現場の視点から見て、テレワーク就労を希望する障害者は増えているのか。

(佐藤(あ)委員)

・当センターの圏域では、テレワークを希望している方は少ないと思われる。テレワークに興味があるので、PCスキルを高めていきたいという準備段階の方は数名いる。地域によっては、通勤が不便なため、テレワーク就労を希望している方がいると聞いており、地域差があると思われる。

(真坂委員)

- ・PCの技術面等で差があり、就労へのモチベーションも違うと思われる。

(竹内座長)

・パソコンやズームの研修も今まで以上に取り入れていかないと、幅広い人がテレワークに興味を持ってもらえないと感じる。

②分身ロボットOriHime事業報告

(労働政策課)

- ・企業へ1週間貸出し、利用方法について意見をもらった。
- ・啓発として、特別支援学校での見学会や企業訪問、県主催セミナーで紹介
- ・企業の用途としては、受付や社員間の連絡で利用があった。
- ・企業の声として、操作が簡単、ジェスチャーでコミュニケーションができる等の声があった。

(障害政策課)

- ・身体障害者施設3施設及び県立義肢製作所のユーザーへ貸出しを実施
- ・主として、外出支援ツールとして利用されて、具体的には帰省や美術展への訪問、かつ

ての入所先への訪問などに利用された。

- ・利用者からは、実際に外出している気分が味わえた、たくさんの人から話しかけられて、コミュニケーションが多くとれるようになったなどの声があった。
- ・課題として、移動中などに通信環境により利用できない場面があった等の声があった。

(特別支援教育課)

- ・試行的に肢体不自由及び病弱の特別支援学校に貸出し、活用してもらった。
- ・授業や修学旅行への参加、入院中の児童生徒が、退院後復学予定の学校の児童生徒との交流等に利用した。
- ・主な声として、外の様子が自分で操作して見られる、周りの友達が集まってきて嬉しい、入院中の姿を見られずに済むので良い等の声があった。
- ・2月中に、肢体不自由の生徒が、県庁の32階のカフェで受付業務接客等の体験をOriHimeで行う予定

(竹内座長)

- ・特別支援学校の現場で、OriHimeが生徒の代わりに修学旅行等に行くのは感動的な部分もあり、動画のような形で残して、どこかで利用いただけると印象的で良いと思うので検討いただきたい。

③ぐんまグッジョブフェアについて

- ・新型コロナウイルスの影響もあり、動画配信で実施
- ・2部構成にしており、令和3年12月から、県YouTubeに公開中

(竹内座長)

- ・多くの方に動画を見てもらうために、関係機関への周知・情報提供をお願いしたい。

(3) 令和4年度障害者雇用関連予算案について ※新規・拡充部分を中心に記載

(労働政策課)

- ・障害者就労支援事業では、法定雇用率引上げに伴い、障害者雇用義務が生じる企業が増えてきていることから、伴走型支援の企業を増やして実施予定
- ・ぐんまグッジョブフェアについては、特別支援学校生徒による学習成果発表や障害者施設製品の共同販売会を会場で実施予定

(産業人材育成室)

- ・テレワーク基礎コース、1コース3人で設定
- ・介護職員初任者研修は、一般の方と障害のある方も一緒に行う、インクルーシブ型で行ったが、良い雰囲気で行われたと報告を受けており、来年度も引き続きインクルーシブ型で実施予定

(障害政策課)

- ・障害者就労支援連携プロジェクトは、今年度はコロナの関係もあり、研修は動画配信、交流会は中止となったが、来年度は交流会を実施する予定で予算計上している。
- ・OriHimeの体験事業については、来年度も実施予定

(農業構造政策課)

- ・今年度に引続き、農福連携普及啓発事業、農業分野での活躍支援事業、JAによる農福

マッチング事業を実施

(特別支援教育課)

・新時代の特別支援学校作業中学習充実事業では、今年度のものを発展し行う予定。作業製品の統一ロゴマークや製品の改良等に力を入れていこうと思っている。

(竹内座長)

・来年度労働局で力を入れる取組や新規で行う取組等あれば教えていただきたい。

(小関委員)

・農水省と連携して農福連携を今後強化していく方向となっており、県とも連携して農福連携を進めていきたい。

(竹内座長)

・障害者の一般就労支援に関して、企業側からの視点で意見はあるか。

(五十嵐委員)

・新しく障害者雇用義務が生じた小規模企業の実雇用率が低く、労働政策課で行う伴走型支援も小規模企業のニーズがあると思われる。

(佐藤(武)委員)

・アムコでは、世界的な半導体不足の影響もあり厳しい状況ではあるが、しっかり定着支援を行い、従業員が辞めることもなく、また、来期も新人が入ってくるよう整えており、こつこつ雇用していかないといけないと思っている。群馬県の雇用率が全国平均以上になるよう皆様と協力していきたい。

(4) その他

(栗原委員)

・農福連携のイベントを県庁32階NETSUGENにて2月に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、延期となった。具体的に決まったら御案内したい。